

イエローサブマリン、フレキシブルでスピード感のあるソリューションを実現

現場第一の視点で店舗の防犯・セキュリティ対策を強化



企業名：
株式会社ホビーベース
イエローサブマリン

所在地：
埼玉県さいたま市

業種：
小売業

アプリケーション：
防犯・セキュリティ

パートナー：
株式会社 エムアンドエム

課題

1985年創業。株式会社ホビーベース イエローサブマリンは埼玉県さいたま市に本社を構える、模型玩具やゲームの小売り・製造・販売を手がける企業。「イエローサブマリン」もしくは「イエサブ」の愛称で親しまれ、日本全国に30店舗を構える。画一的な店舗運営をせず、店舗ごとに特色のある品揃えをしているのが特徴だ。店内には様々な種類の玩具やゲーム類がひしめく。

新しいソリューションには、フレキシブルで高性能な監視システムが求められていた。以前より店内の監視システムにはNVRが導入されていた。しかしひとたびNVRに不具合が生じると、その機器に接続されているすべてのカメラの録画が停止し、NVRごと修理・交換しなければならないため現場で迅速な対応ができない状況にあった。さらに、カメラ台数の増加によるレコーダーの追加も負担となっていた。例えば、16チャンネルのレコーダーを導入していた場合、カメラが17台を超えてしまうとその都度8チャンネル等のNVRを追加しなければならない。よってカメラ1台追加によりNVRの費用が大きいかさむこともあった。

解決策

採用されたのは小型モジュールカメラの「AXIS Fシリーズ」。VMSにはAxis製管理ソフトウェアラインナップのうちAXIS Companionが選ばれた。ネットワークカメラ製品の選定にあたり、カメラ位置の変更に柔軟に対応できる点、エンドユーザー自ら簡易な設置ができる点などが評価され、「AXIS Fシリーズ」の採用が決定した。システムの導入はアクシスチャネルパートナー企業の株式会社M&Mと共に進められた。「AXIS Fシリーズ」は、主にセキュリティと損失防止を目的とし、何かが起こった際に利用される現場検証用の映像がSDカードに録画されている。音声の集音が可能な「AXIS F44」はレジ周りに設置された。その他の箇所は「AXIS F34」による対応となっている。

効果

NVRによるシステム構成からVMSに変更され、カメラ1台の追加につき1チャンネルを追加するだけで済むようになったことで、冗長性が向上した。機能や性能の点では、ひとつのセンサーで広角102°を捉えられる、さらに簡易な操作性のため不具合があってもまずは現場で対応し解決できることが増えた点が高く評価された。頻繁に行われる店舗のレイアウト変更にあわせて、店員自らセンサーの位置を変更できるようになったため、常に死角がほぼない状態での監視が実現した。

「システムの選定には、10社ほどの製品を比較・検討しました。今回導入したアクシスのソリューションでは、多くの高性能な仕様よりも、本当に求められている機能や性能が満たされていると感じて、選定にいたりました。これまで検知されなかったと思われる万引きなどの認知件数が増えて、さらにその手口の傾向性を探り、対策を講じられるようになったことも大変大きな成果です。」

株式会社ホビーベース イエローサブマリン 管理本部経理課 森本氏

システム導入の背景と詳細

イエローサブマリンの店舗は、多ければ四半期に一度くらいの頻度で内部のレイアウト変更が実施される。流行やトレンド、ブームを捉えつつ、商品の陳列からレジ位置に至るまで来店客の導線が変更される。そのように頻繁に変更される店舗運営は、長年の固定客にも常に目新しさを提供することににつながるという。

検討段階において、当初は全方位カメラの導入が目されていた。全方位カメラであれば、頻繁に行われる大掛かりな店舗内部の導線変更にも少ない台数で手軽に対応できるかもしれない、と考えられていたからだ。しかし、実際には店舗のスタッフ自らが現場の状況に合わせてセンサー位置を変更できるシステムのほうが、異なる距離や角度からの撮影にも対応できるため、はるかに柔軟な運営が可能であると評価された。

防犯・セキュリティの面においては、犯罪の再発や再犯の防止に力を発揮している。例えば万引きの発生を速やかに発見し、様々な位置からの映像を確認しながら分析して犯行手口の傾向性を探り、対策を講じることが可能となった。店舗スタッフによる現行犯の摘発などといった犯人との直接の接触は様々なリスクを伴うため、対応は警察との密な連携を中心に行われている。有事の際には速やかに被害届を提出し、関連の映像情報などを利用して警察側も迅速な対応を図っている。また以前に比べて2倍程度のセンサーが設置され、店舗内の死角がほぼなくなった。それにもかかわらず、センサーサイズが小さく、ドーム型の控えめなデザインのために、圧迫感がなく店内の景観が損なわれないと評価されている。

センサーとユニットを組み合わせて利用するモジュール型のネットワークカメラの場合、例えば何らかの不具合が見つかった場合にも、そのシステムをシャットダウンする、SDカードを点検するなど、一定のトラブルシューティングであれば現場においても速やかな対応が可能となった。以前NVRを利用していたときには、機器の不具合でシステムが停止すると現場での対応が全くできず、修理・交換などにも手間と時間、コストがかさんでいた。多忙を極める業務の中、そのような手配をすること自体が何より大きな負担となっていた。さらにセンサーごとに行うSDカードでの録画も、不具合へのリスクを分散するという点においてNVRより優れていると判断された。NVRの場合、ハードディスクに一括で録画されるため、不具合が起こった場合には接続されているカメラの台数の分そのまま影響を受けてしまうからだ。

イエローサブマリンは2017年9月現在、日本全国に約30店舗ほど展開されている。今後は同様のソリューションが全国の店舗に展開される予定だ。システム導入の進行に伴い、活用方法や運営面においても今後の進化が見込まれている。

